

JR東海労ニュース

一方的な休日出勤反対！

闘争シリーズ No.24

No. 772 2005年12月15日

JR東海労働組合

ユニオンは労働条件よりも会社が大事!? スト批判の前に一方的な休日出勤解消に力を入れろ!

12月9日、ユニオンが「暴挙を乗り越え、私たちのJR東海を守り抜こう」という標題で、中央執行委員会見解を出した。会社への忠誠心がこもった内容である。

ユニオン本部よ、指名ストを暴挙とはよく言ったものだ。そもそもストの日は自分の休日だ！それを休むことがなぜ暴挙なのか！会社から一方的に休日を取り上げられることは暴挙と言わないのか！ユニオン本部は、本人同意無視の休日出勤を認めるということだな！私たちはユニオンの主張にはまったく理解できない。

ユニオン本部は「労使対等の原則にたち、労使交渉を尽くしてもなお課題の解決が図れない局面において、全ての組合員の合意の下で行使されるべき行為」と、主張する。わがJR東海労がこれまで行ってきたことであり、その通りだ。だから指名ストに入ったのではないか。では逆に聞くが、一方的な休日出勤に対し、ユニオン本部は課題の解決ができるということだな。見解の中では、～まで書かれて、さぞかし解消が進んでいるかのように幻想がふりまかされている。たまたま、愛知万博が終わったから、多少マシになっただけのことではないか。解消のめどをハッキリさせないで、何が解決だ。うぬぼれも甚だしい。組合員はそんなことを聞きたいのではない。解消策の具体的計画を聞きたいのだ。在来線でも休日出勤は当たり前になっている。解消のめどが立たないということは、永久に解消しないということだ。要員問題解決の見通しは未だに闇の中である。

さらにユニオンは、「国民の信頼を失墜する、国鉄改革の精神にもとる行為」と言う。一方的な休日出勤がこのまま続けば、安全はどうなるのか、ユニオン幹部は考えないだろう。何しろ、「稼ぐ」が第一だから、ユニオン幹部はお構いなしだ。福知山線事故では国鉄改革で目指した方向が問われた。未だにユニオンは、JR西日本労使と同じことをやり、少しも目が覚めていない。日勤教育賛成、責任追及賛成、何でも賛成で、国民の信頼を得たいのならやってみたらいい。休日出勤、QC、業研、会社行事、不払い残業などで、事故のリスクを一番背負っているのはユニオン組合員だ。二度と大惨事を引き起こさないように、わがJR東海労はたたかっている。ユニオンの目指す国鉄改革には、安全の「あ」の字もない。会社が進める「命令と服従」の労務管理に、喜んで協力するだけである。当然だが、わがJR東海労が目指す国鉄改革とは180度違う。

スト権行使を暴挙と決めつける組合は、世界中どこをさがしてもない。私たちのたたかいは、国内外問わず激励が多数寄せられている。これは、ユニオンが異色な存在であることの証左でもある。私たちJR東海労は、あらゆる妨害をはねかえし、自信をもってさらにたたかいを継続する。

ユニオン組合員のみなさん、一方的な休日出勤解消のためにJR東海労に加入しよう！